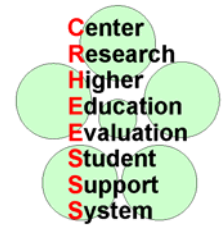


週刊センターニュース No.5



第5号(2004年4月12日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyoku_rche/index.htm

共同学習会のご案内

- 第13回 日時: 4月15日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 西山宣昭 大学教育開発・支援センター助教授
題目: レイト・スペシャリゼーション - 九州大学の場合 -
企画の趣旨: カリキュラム調査の結果を報告する。学部、学科を決めずに入学させ、入学後の科目履修をしてゆく過程で学生が自らの進路を決める、late specialization を取り上げる。今回は、九州大学の調査結果について報告したい。
- 第14回 日時: 4月22日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 青野 透 大学教育開発・支援センター教授
題目: 「ミニッツペーパーの活用法」
企画の趣旨: 授業が始まり、各教員の授業改善の取組が行われていると思われる。受講生との応答関係の確立、毎回の授業ごとでの授業評価そして授業改善、という二つの目的をもった、ミニッツペーパーの使用を紹介する。なお、この報告は、本年3月1日に開催された第一回金沢大学教育セミナーでの報告とその内容が重なるが、同セミナーにご参加いただけなかった方、さらには新任教員で授業法改善に模索されている方などを主たる参加者と考えている。
- 第15回 日時: 5月6日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 松井 秀治 共通教育課長
題目: 「金沢大学の新しい事務組織について」
企画の趣旨: 法人化に伴い、新しい事務組織が発足した。それぞれの所掌等について一人ひとりの教職員が理解しておかねば効率的な仕事はできない。情報の流れがスムーズにいかないと組織は停滞してしまう。学長が強調される、教員・職員のイクオールパートナーシップの実質的確立に向けた、最初の共同学習会とする。

シンポジウム「教育の連続性と学びの多様性について」に参加して

2月28, 29日、(財)大学コンソーシアム京都主催の第9回FDフォーラム・第1回高大連携教育フォーラムに参加した。京都を中心とした50余りの大学が加盟する(財)大学コンソーシアム京都は、これまでの大学相互、及び大学と地域社会、産業界との連携に加えて、京都高大連携研究協議会を発足させた。このフォーラムの中で、左巻健男氏(京都工芸繊維大学教授)、荒瀬克己氏(京都市立堀川高校校長)、藤原和博氏(東京都杉並区立和田中学校校長)をパネリストとしてシンポジウム「教育の連続性と学びの多様性について」が行われた。

左巻氏は、小中高生の学習意欲の低下の一因が、学習指導要領の度重なる変更にあると分析した。ゆとり教育を進めるために、段階的に学習項目が削減されてきたが、それは同時に学習内容の質の低下を招いたことを、中学校理科について具体的に指摘された。伝えるべき知識の断片化である。身近な現象に興味を抱くことこそ、主体的な学びの原動力となる。学習内容の相互の関係、そして現象とどう繋がるかを

理解することができなければ、学習意欲が失われていくのは当然の結果である。決して学習内容が難しいからではない。断片化された知識を集めた教科書では、掘り下げて調べようとしても手がかりがなく、主体性も生まれない。以上の主張に基づいて、左巻氏は検定外中学校理科教科書の執筆に取り組んでこられた。学習指導要領の変更以前の内容に戻ろうとするものではないことを強調された。知識（素材）を厳選した上で、現象とどう繋がるかを明確に示そうとする試みである。

荒瀬氏は、堀川高校における科目「探求基礎」の実践を紹介された。同校は、京都市立高校教育改革のパイロット校に位置づけられ、平成 11 年度から普通科に加えて人間探究科、自然探求科を設立した。「探求基礎」はこれら 2 科での取組であり、入学後より 2 年前期まで週 2 時間で進められる。社会科学、自然科学の分野から研究テーマを選び、4～5 人のチームで研究を進める。テーマは与えられることもあるが、生徒たちだけで決めることもある。教員ばかりでなく、大学の研究室を訪れ大学院生の指導を受け、あるいは地域社会の中で研究活動を行う。研究活動とともに、議論、発表やコンピューターの操作など基本技能の訓練も同時的に行われる。2 年前期では個人研究を行う。研究テーマは生徒一人一人が独自に決める。ただし、教員や大学院生と議論が繰り返され、テーマの妥当性や研究計画が吟味される。「ギリシャ哲学における「実践」」、「米国政治の中核、ネオコンとは何か」、「光の速さを測定する」、「京都のヒートアイランド現象を調べる」等興味深いテーマが並ぶ。「光の速度」は 1 年生の物理では扱われないが、生徒たちは自分で調べ人に聞き、積極的に自ら動くという。この「探求基礎」は個人研究発表で締めくくられるが、こうして生徒自ら見出した興味を持って大学に進学することが期待されている。

高校ばかりではない。同様の取組が中学校でも行われている。藤原氏は平成 15 年、東京都では初の民間人校長として杉並区立和田中学校に着任した。社会の実態と教科書の学習内容とのずれに大きな疑問を持ち、全く新しいタイプの社会科の教科書「人生の教科書 [よのなか]」を発表された。社会人と教員とが連携して授業を立体的に演出する取組を進めておられる。例えば「ハンバーガーの出店場所」や「家の設計」を生徒に考えさせることによって、経済や政治の本質を教えるという。まさに、現象と学習内容との関係を明確に示すことにより、生徒たちの学習の動機付けを高めようとする試みである。社会科ばかりでなく、国語、数学、英語などほかの教科でも同様に学習内容と [よのなか] との関わりに焦点を当てた授業作りに取り組んでおられる。

以上のように、中高での主体的な学びを促す取組を聞くことができ、大学での学習への動機付けの方策を考える上で大変参考になった。学生の目標探しを支援するような授業作り、教育システムを目指すべきであるとの思いを強くした有意義なシンポジウムであった。（文責 西山）

角間ランチョンセミナーがスタート

昼食時に、弁当、パンを食べながら学生が様々な話を聞きます。当センターでは、昨年度に引き続きランチョンセミナーを開催します。第 1 回は、外国語教育研究センターの矢淵先生、三上先生が、中国語、フランス語の面白さについて、第 2 回は当センターの青野が例年の履修相談に基づいた履修上の注意点について説明しました。受講後のアンケートによると、新入生にはとても新鮮で、役に立ったようです。

センター教員活動記録（4月5日～4月11日分）

2004.4.7 平成 16 年度前期教養的科目 TA 研修会にて「TA の任務」等についての説明担当（青野）

2004.4.8 第 12 回大学教育開発・支援センター共同学習会開催（発表者 堀井）

2004.4.9 2004 年度第二回（通算第 54 回）角間ランチョンセミナーにて

「『履修案内・時間割表』と『シラバス』の読み方ー自分の時間割を創ろうー」講義担当（青野）